

# 平成22年度第13回都市経営会議

日時 平成22年12月1日(水) 13:00~14:10  
会場 市長応接室  
参集者 西尾市長 小柏副市長 中林水道局長  
渡辺企画部長 上戸総務部長 片岡財務部長

## 議 題 事業レビューの総合評価に対する市の考え方および見直しの方針等について

◎対 応 谷口総務部次長 小林行政改革課長 高橋港湾空港部長  
高橋港湾空港振興課長 川越福祉部長 西川介護高齢福祉課長  
谷障害福祉課長 阿部環境部長 佐藤リサイクル推進課長  
秋田土木部長 佐藤緑化推進課長

### ◆ 議題の趣旨 ◆

平成22年度に実施した函館市事業レビューの総合評価に対して、各部の考え方および見直しの方針等がまとまったことから、その内容について協議しました。

### ◆ 協議の結果 ◆

見直しの方針等については、一部訂正することとしました。

### ◆ おもな発言 ◆

#### ■ 小林行政改革課長

前回に引き続き函館市事業レビューの総合評価に対する各部の考え方および見直しの方針等について協議したい。

#### (1) 旅客船入港歓迎事業

#### ■ 高橋港湾空港部長

総合評価は、事業の必要性は評価するが事業効果をしっかりと計測すべき、民間等との連携を図り効果のあるイベントとなるよう改善すべきとなっている。見直しの方針等は、庁内はもとより関係する事業者や団体等と十分連携を図りながら事業に取り組むとしたい。

#### ■ 西尾市長

観光コンベンション部とも連携し、市内のイベント日程を早めに固めてしまい、それらを盛り込んだ観光パンフレットを作成して旅行会社などに売り込めば競争力が上がるのではないか。

■高橋港湾空港部長

現在もチラシなどを作成して対応している。この事業は、経済効果は十分にあるが、最近では競争も厳しくなっている。

■西尾市長

他都市にはない特色を打ち出し、優位性を持って進めて欲しい。現在、遺愛高校が授業の一環として外国人観光客に対するおもてなしを行っているが、このような取り組みを拡充してもらいたい。

■高橋港湾空港部長

他の高校からも申し入れがあるので拡充していきたい。

■小柏副市長

拡充する分野を明確にするなど、もう少し積極的な姿勢が盛り込まれていてもいいのではないか。

■小林行政改革課長

具体的な取り組みの強化など、方針等については再度調整することとしたい。

(2) 老人福祉センター管理

■川越福祉部長

総合評価は、ニーズの変化に対応した事業展開や有料化を検討すべき、指定管理者の導入など今後の運営のあり方について早急に検討すべきとなっている。見直しの方針等は、指定管理者制度の導入など市民理解が得られるあり方について検討する、有料化については利用者アンケート等を実施したうえで検討するとしたい。

■西尾市長

指定管理者への移行は速やかに実施できるのではないか。

■川越福祉部長

有料化の可否の影響を受けることからそれを見極めたうえで移行したいと考えている。札幌では有料化に伴って体制の見直しを行っている。

■中林水道局長

有料化に伴って人員を増やすということにはならない。現員での対応を考えるべき。

■川越福祉部長

老人福祉センターは入浴だけではなく社交の場にもなっており、文化講座なども開催されている。有料化により利用の落ち込みも考えられる。福祉部としては施設がある以上、多くの方に利用してもらいたいと考えているので、有料化がなじむのかどうかも含めアンケートを実施し、その結果を踏まえ判断したいと考えている。

■小柏副市長

4 支所管内の施設とのバランスの問題もある。これらも含めて検討する必要がある。

■中林水道局長

人を貼り付けた場合、人件費の方が有料化による増収を上回る可能性もある。また有料化に伴い施設整備も必要になる。

■小柏副市長

無料で入浴できるというのが不公平感につながるのではないか。高齢者だけでなく一般の市民にも意見を聞くべき。

■西尾市長

施設の近くに住んでいる人とそうではない人では意見も異なる。不公平感が高ければ有料化も考えなければいけないが、丁寧な議論が必要だ。利用者数を把握するとともに対象者が現行年齢でいいのかなど、良く意見を聞いて見直しを進めて欲しい。

■小林行政改革課長

施設の必要性や具体的な取り組みを記載することとし、再度調整することとしたい。

### (3) 副読本発行业

■小林行政改革課長

総合評価は、副読本としては必要だがメディアとしての工夫が必要、所管部局ごとの副読本を一つに集約するなど配付方法について工夫すべき、利用実態の把握・検証を行うべきとなっている。見直しの方針等は、対象学年や教科が異なることから集約は難しい、教育委員会と連携を図り利用実態の把握・検証をしてより効率的・効果的な活用方法について検討するとしたい。

■片岡財務部長

授業で実際に使われているのか。

■川越福祉部長

福祉部の副読本は9割近くの学校で使われている。

■阿部環境部長

環境部の副読本は7割の学校で利用されているが、その多くは日乃出清掃工場の見学にも来るなど函館市の環境対策をしっかりと勉強している。学校では現場の先生の対応に任せており、副読本の位置づけがしっかりしていないのが問題だ。

■ 西尾市長

内容も充実しており大変勉強になる教材なので、学校教育の現場でも是非使うようにしてほしい。

■ 片岡財務部長

経費ではなくどう利用されているかが問題。利用実態を把握すべき。

■ 小柏副市長

他部局の副読本も必要ではないか。

■ 小林行政改革課長

食育をはじめ色々考えられるが、学習指導要領で定められた教育をこなしながらとなると、さらに増やすというのは難しいと思われる。

■ 西尾市長

もともと先生方には、学校教育と社会教育は別との意識がある。最近は変わってきているが、教育委員会とも連携し、積極的に利用してもらうようにしてほしい。現在の副読本は大変いい内容になっており、無理に合冊する必要はないと思われる。